

令和6年能登半島地震に伴う習志野市の対応及び教訓等について

1. 地震の概要 [気象庁情報 令和6年4月23日現在]

発生日時	令和6年1月1日16時10分
震源場所	石川県能登地方
地震の規模	マグニチュード7.6
震源の深さ	16km
震度	最大震度7（石川県志賀町、輪島市）、震度6強（珠洲市）

2. 人的・住家被害等の状況 : 対口支援自治体（珠洲市）

（1）珠洲市の地勢等

ア 人口 : 12,947 人

イ 世帯数 : 5,901 世帯

ウ 地形等

（ア）能登半島の最先端に位置

（イ）面積は、247.2km²であり、西部を除き三方を日本海に囲まれ、山地が大部分を占め、その他段丘と丘陵とで形成

（2）人的・住家被害 [石川県災害対策本部会議資料]

①人的被害（人）

死者	災害関連死	行方不明者	重症者	軽傷者	合計
103	(6)	0	47	202	352

※令和6年4月23日現在

②住家被害（棟）

全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	合計
2,124	1,114	1,577	0	0	4,815

※令和6年1月31日時点：約1か月後に細部を把握

（3）避難所の状況

令和6年1月7日時点

令和6年4月23日現在

避難所数	避難者数	⇒	避難所数	避難者数
62	6,869		33	636

（4）ライフラインの状況

①上水道：◆1月7日時点で約4,800戸断水（ほぼ全域）

◆2月20日時点で約4,700戸断水（一部の小規模エリアで解消）

◆4月23日時点で約2,830戸断水

②下水道：◆4月23日現在、下水道の宅内配管工事の加速化に向けた対応

③電力：◆1月7日時点で約6,700戸停電

◆1月14日時点で約2,900戸停電

（5）道路被害

国道や県道等の陥没・隆起等多数発生、市域の北と南を分断

（6）その他

孤立集落が発生、1月26日時点、全て解消

3. 習志野市の支援実績

令和6年1～3月に、珠洲市へ習志野市職員延べ6名を派遣し、業務を支援

派遣日程	期間	人数	業務支援内容
1月12日～1月17日	6日間	2人	住家被害認定調査
1月22日～1月26日	5日間	2人	避難所運営（金沢大学能登学舎）
2月27日～3月2日	5日間	1人	避難所運営（大谷小中学校）
3月13日～3月17日	5日間	1人	避難所運営（上戸小学校）

4. 派遣職員の実体験及び所感

（1）住家に関すること

- ・全壊している住家は、昭和56年以前に建築された耐震基準が古い木造建築物が大半であり、56年以降の新耐震基準を満たしている住家の全壊は極めて少ない。

（2）避難所生活に関すること

- ・地区長を中心に避難所における決まり事や運営が行われていた。
- ・被災者には女性も多く、支援物資（生理用品や下着等）や生活空間等において、女性のプライバシーを守ることの必要性を感じた。また、女性職員が避難所運営に従事することにより、男性には伝えにくいことも相談できたとの声があった。

（3）避難行動に関すること

- ・派遣先の一つである金沢大学能登学舎地区では、定期的な訓練と日頃からの付き合いにより、発災時も津波警報による高台への避難が円滑に行われ、当該避難所の地区の全員が助かったと伺っている。

5. 能登半島地震からの教訓

①住家における耐震化促進の重要性

②防災リーダーの存在や地域コミュニティの大切さ

③日頃からの訓練等のイベントの開催と住民間の関係の構築の必要性

※津波からの避難訓練を定期的実施、当日もいつも見る顔見知り居ないから
該当者の家に行き、同伴・援助して避難、その地区の住民全員が助かった。

④避難生活における感染症対策（手洗い・うがい・マスク着用）の徹底

⑤避難所において女性職員が常駐できる仕組み作り

⑥災害用トイレの設置台数や便の安置場所の確保

※汲み取り式は、すぐにいっぱいとなり、使用禁止の状態となっていた。

6. 現地の様子

1) 倒壊した家屋



2) 損壊したライフライン(③: 電柱の損壊、④: 污水管等の損壊)



3) 金沢大学能登校舎避難所(⑤: 生活空間空き教室、⑥: 物資拠点体育館)



4) 避難所の受付(⑦:校舎玄関ホール、⑧:体育館出入口)



5) 大谷小中学校避難所生活空間(⑨:発災20日後、⑩:発災2か月後)



6) 蛸島小学校避難所(体育館)約150名収容

